

[044]九州大学総合研究博物館ニュース

<https://hdl.handle.net/2324/7388919>

出版情報：九州大学総合研究博物館ニュース. 44, pp.1-, 2025-10-06. The Kyushu University Museum
バージョン：
権利関係：



NEWS

The Kyushu University Museum
九州大学総合研究博物館ニュース

No.
44
October, 2025

大学博物館等協議会・日本博物科学会を開催

去る6月19、20日に九州大学箱崎サテライト・旧工学部本館にて、第28回大学博物館等協議会・第20回日本博物科学会が開催されました。詳しくは開催報告をご覧ください。全国の大学博物館から多数の参加者を迎え活発な議論が交わされました。当館のリニューアルオープンに向け、これらの知見を活かしていく所存です。しばらくは一般公開の休止となりますが、皆さまの支援を引き続き賜りますよう努力してまいります。

総合研究博物館第10代館長 堀 賀貴



開催報告

九州大学総合研究博物館第25回公開展示

「博物の森で遊ぼう」

米元 史織 開示研究部門・准教授

期間 ● 2025年 5月17、18、24、25、31、6月1、7、8、14、15日

5月17日(土)から6月15日(日)までの土日10日間、九州大学箱崎サテライト・旧工学部本館にて、第25回公開展示「博物の森で遊ぼう」を開催しました。

今回の展示は、旧工学部本館のリニューアルに伴う改修工事の関係で、7月から博物館常設展示室の一般公開が休止されるのに先立ち、特別に企画したものです。この貴重な機会に、普段は公開していない全開示室を一挙に公開。九州大学110余年の歴史の中で蓄積された154万点もの膨大な所蔵資料を間近でご覧いただきました。そこには、九州大学の歴代の研究者が情熱をもって収集・保存・研究してきた化石や昆虫、鉱物、動

植物の標本、古人骨資料や考古資料など、まさに“博物館の宝物”が所狭しと並んでおり、訪れた方々にその価値や魅力を存分に感じていただけたことと思います。これらの資料は、学問や大学の歩みを伝えるとともに、新たな研究が生まれる可能性を秘めた、未来に引き継がれる大切な標本資料でもあります。

会中には、博物館教員による解説付きの参加型イベントや、九大生による創意あふれる特別企画など、多彩な催しを開催しました。多くの方にご注目いただき、事前申込制のイベントは短期間で定員に達し、申込不要のイベントについても毎



回70名近い方々にご参加いただくなど、大変な盛況となりました。毎日行った鉱物標本作成ワークショップは、各日30名限定ながら、午前中には定員が埋まるほどの人気ぶりでした。また館内にはスタンプラリーを設け、広い建物の中を探検気分ですべて回っていただきました。「スタンプがなかなか見つけられない!」と苦戦しつつも、楽しそうに挑戦される姿も多く見られました。多くの九大生やボランティアの先生方が展示解説を担当し、来館者と直接言葉を交わしながら標本や資料の魅力を丁寧に伝えたことも、大変好評でした。参加した学生たちにとってもとても楽しく充実した経験となったようです。標本に触れながら学ぶ体験や、研究の第一人者と直接話せる機会が、多くのお客様にとって有意義で、知的好奇心に満ちた豊かな時間であったことを願っています。

10日間の総来館者数は5,788名。多くの方々に当館の魅力をご存分に味わっていただけたことを、博物館スタッフ一同、心よりうれしく思っております。ご来館くださった皆さま、本当にありがとうございました。リニューアルオープンした後、またお会いできることを心待ちにしています。

◆◆ 重要なお知らせ ◆◆

旧工学部本館博物館常設展示室
一般公開の一時休止について

期間 ● 2025年7月1日(火)～

旧工学部本館3階の総合研究博物館・常設展示室は、**リニューアル準備のため2025年7月1日から一般公開を一時休止しています。**2008年の開室以来、多くのお客様に足を運んでいただきましたこと心から感謝申し上げます。リニューアル後にさらに楽しく、わかりやすく、より魅力的で包摂的な展示となるよう企画を進めていきます。再開の時期が決まりましたらホームページ等でお知らせいたしますので、どうぞ楽しみにお待ちください。引き続きホームページでは360°ツアーや伊都キャンパスのフジギャラリーでの展示、各種イベントなどを紹介していきますのでそちらも併せてご確認いただけますと幸いです。



フジギャラリー展示開催報告

九州大学工学部建築学科 卒業設計展

わたしの視点、あなたの視点 ～あなたなら この建築をどう見る?～

大池 岳 九州大学 人間環境学府空間システム専攻・修士1年

2025年3月18日～5月25日に、フジギャラリーにて開催しました「九州大学工学部建築学科卒業設計展」は、約1700名もの方々にご来場いただきました。この場をお借りして、多大なるご協力を賜りましたフジギャラリーおよび関係者の皆様にご心より御礼申し上げます。

卒業設計は、これまで培ってきた思考や知識や技術など全てを導入して、全力で自分の考えを自由に表現する一生に一度の機会であり、「わたしの視点」を深掘りした作品です。しかし、その作品がひとたび社会に出れば、様々な背景を持つ「あなたの視点」にさらされます。同じものを見ても、立場や経験によってその見え方や感じ方は大きく異なるはず。私たちの作品が、あなたの視点と出会うことでどのように見えるのか。そんな思いから今回は「わたしの視点、あなたの視点～あなたなら この建築をどう見る?～」というテーマ



を掲げました。

本展示では「思考の過程を見せる」ことを意識しました。従来の卒業設計展は、完成された模型やプレゼンボードといった

「最終成果物」のみを展示します。しかし、最終成果物に至るまでの過程にこそ、数多くの試行錯誤が

あり、私たちの学びや葛藤、そして成長が詰まっています。その「過程」こそが、実は最も価値のあるものではないか。私たちはそう考え、学生が走ってきた軌跡全てを展示することに挑戦しました。



また、5月17日には関連イベントとして「建築 × 異分野クロストーク『建築は社会をどう象るのか』」を開催しました。異なる分野の専門家をゲストとしてお招きし、私たちの作品を前に語り合いました。普段接することのない異分野からの鋭い指摘や温かい講評は、自らの作品と社会との繋がりを再認識する貴重な機会となりました。

本展示を通じて、建築の専門的な知識がない方々にも、私たちが日々どのようなことを考え、社会と向き合っているのか、その一端をお伝えできたのであれば幸いです。皆様からいただいた多様な「あなたの視点」を糧に、私たちはこれからも学びを続けてまいります。

最後になりますが、今年度の卒業設計展は2026年3月頃の開催を予定しております。後輩たちが準備を進めてまいりますので、ぜひご期待ください。

① 展示入口の様子 / ② イベント風景 / ③ 会場風景

COLUMN①



みんなの医学：芸術・科学・ケアのビジョン

期間●9月8日～26日 / 会場●フジギャラリー G2

ローレンス ヨハン 基幹教育院・教授

人々の健康と幸福を目標とする医学の歴史は、基礎科学、標準化、そして正常と異常を区分することに厳密に集中してきました。しかし、生まれ持ったメカニズムと育ちのメカニズムによって形作られる、計り知れないほ

ど多様な身体と心の現実に、私たちはどう応えるべきでしょうか。「みんなの医学」というテーマのもと、医学研究、ビジュアルアート、詩という3つの分野が交差するユニークな試みの成果を紹介することで、専門分野にとらわれ

ない共創的な思考を刺激することを期待しています。特に、クララ・スピリアルトによるパブリックアート作品を中心に紹介します。また、二つのトークイベントも開催し、来場者との交流と意見交換の機会を設けます。

フジィギャラリー展示開催報告

吉岡齊資料展

—日本の科学技術と原子力政策—

赤司 友徳 九州大学 大学文書館・准教授



①

フジィギャラリーにて、6月11日から8月6日にかけて「吉岡齊資料展—日本の科学技術と原子力政策—」を開催いたしました。本展は、九州大学大学文書館が所蔵する故吉岡齊先生の膨大な資料群を紹介するもので、三部構成で展開しました。第1部「吉岡齊資料の整理プロジェクト」では、大学へ寄贈された資料群の整理作業の軌跡をたどり、その全体像を示



しました。第2部「膨張と忘却」に見る吉岡齊資料」では、NHK ETV 特集「膨張と忘却～理の人が見た原子力政策～」で取り上げられた資料を中心

に、書き込みのある政府の委員会資料や直筆原稿などを通して、日本の原子力政策に向き合った吉岡先生の思索を提示するものでした。第3部「九州大学での仕事」では、吉岡先生の教育・研究、大学運営と社会との対話の実践を、資料をもとにたどりしました。

会期中は、九州大学中央図書館にて関連企画「著作にみる吉岡齊の仕事」も開催され、吉岡先生の幅広い知的業績に多角的に光を当てるものとなりました。また、本展の開催にあたり、NHK福岡放送局より多大なご協力を賜り、会場には上記の番組紹介コーナーも

設置されました。特に7月25日にはその番組が再放送され、展示への関心を一層高める機会となりました。

オープンキャンパス期間中に実施したギャラリートークでは、高校生の参加者が熱心に資料に見入る姿が印象的でした。日本の科学技術と社会のあり方を巡る吉岡先生の問題提起が、次代を担う若者たちに真摯に受け止められている様子がかがえしました。

末筆ではございますが、本展の開催にあたりご協力、ご尽力くださいました皆様に厚く御礼申し上げます。まず、貴重な資料群をご寄贈くださった関係者の皆様、そして膨大な資料の整理にご尽力いただいているボランティアの皆様にご心より感謝を申し上げます。また、NHK福岡放送局、関連企画で本展を盛り上げてくださった九州大学中央図書館、そして会場をご提供くださり、細やかなご配慮とご協力を賜りました九州大学総合研究博物館ならびに係員の皆様に、重ねて深く感謝いたします。今後できるだけ早い時期に吉岡資料の公開を行うことができるよう努めてまいります。



③

① 展示入口の様子 / ② 展示場① / ③ 展示場②

COLUMN②



九州大学100年の中国学研究

The 100 Years of Sinological Studies at Kyushu University

期間●10月6日～11月28日 / 会場●フジィギャラリー G2

九州大学100年間に培われ、保存される中国学(中国を淵源とする思想や文化の研究)に関するさまざまな資料や研究者そして研究成果など、即ち「モノ・ヒト・コトガラ」を紹介いたします。いわゆる「九州大学本」として学界に知られる朝鮮古写本

『朱子語類』140巻や唐の玄宗皇帝の宸蹟を刻した「紀泰山銘」拓本、また古典小説三国志演義のテキスト『三国志伝』20巻などの貴重書のほか、1926年に本学法文学部に着任した楠本正継(1896～1963)をはじめとする歴代の研究者、また孫文

静永 健 人文科学研究院・教授

や郭沫若など著名人との交流にもスポットライトをあてます。

また今年新たに重要文化財指定を受けた「金光明最勝王経」(国語学研究所の泰斗春日政治・春日和男両名誉教授旧蔵)も期間限定で特別公開されます。



開催報告

第28回大学博物館等協議会・ 第20回日本博物科学会

三島 美佐子 分析研究部門・教授



①

この協議会には、国立系の大学博物館や私立大学博物館などを含め、現在45団体が加盟し、毎年1回会合が持たれています。シンポジウム・館長会議・総会の三部構成により、大学博物館等が直面する問題や活動に関する意見交換、会員の交流がはかれる会合となっています。2日目に開催される博物科学会は、大学博物館での研究成果のほか、実務や実践活動なども共有・発表できる場です。協議会所属館の教員やその学生らによる実践や研究の報告が活発になされます。

前回当館が会場校となったのは、工学部の最初の移転が始まって間もない2007年でした。元々は2020年に久々の開催校として大会を担う予定でしたが、COVID-19の感染拡大で中止になり、改めて今年、当館に開催校が回ってきたため、当館メンバー総出で開催に挑みました。

大会参加者は両日あわせてのべ79名、口頭発表14題、ポスター発表3題、館紹介ポスター掲示20校で、

旧工学部本館3階の室や廊下を活用して実施しました。前大会から実に18年ぶりの箱崎来訪となる参加者もあり、更地化され大きく様変わりした旧箱崎キャンパスの様子に、驚かされている方も多々いらっしゃいました。

初日に開催されたシンポジウムは「大学博物館収蔵再考—新たな段階にむけて—」と題して、課題山積する収蔵庫問題はもはや前提として、ではどうしていくのかということが議論されました。デジタル化や分散収蔵、キュレーションによる資源化などを駆使した収蔵活動について、3つの大学博物館から事例紹介があり、また収蔵庫に関する課題は国際的にも共通していることなどの話題提供もありました。パネルディスカッションでは活発に意見が交わされ、「もっと議論する時間が欲しかった」という声も聞かれ、初日夜に博多駅で開催された懇親会やその後の二次会で、引き続き議論する参加者の姿も見られました。

最終日には1組13名ずつの4組で館内を巡るツアーを実施し、改修前の当館をくまなくご覧いただきました。大学の中で普段はなかなか理解・共感を得にくい大学博物館ならではの悩みや喜びを、久々に会う仲間たちと忌憚なくわかちあえる、貴重な2日間となりました。



②

① パネルディスカッション会場風景

② バックヤードツアーの一コマ(中央は堀館長)

COLUMN③

使途特定寄附金 寄附者顕彰銘板設置のお知らせ



総合研究博物館では、九州大学基金使途特定寄附「総合研究博物館箱崎サテライト拠点化事業」をおこなっています。この度、旧工学部本館3階の常設展示室に、多額のご寄附をいただいた方々のご芳名を顕彰す

る銘板を設置しました(2025年3月設置)。本銘板は、当館がこれまで収集・保存してきた歴史的什器類のうち、帝国大学時代の掲示板を修繕・再利用する形で製作しております。現在、リニューアルに向けた準備のため、

福永 将大 開示研究部門・助教

常設展示室の一般公開を休止しておりますが、リニューアル後も引き続き、設置・顕彰してまいります。最後になりますが、皆様からの多大なるご支援・ご協力に、改めまして深く御礼申し上げます。



実施報告

旧工学部本館の3D測量とデジタルミュージアム

堀 賀貴 総合研究博物館第10代館長

博物館はリニューアルに向け一般公開の休止期間に入りますが、博物館の現状を3Dデータとして記録保存することを目的に、また休止期間中にも博物館を楽しんでいただく方策の一つとして3D測量を開始しました。さらに、この3DデータをWeb上で閲覧し、加えて展示物をバーチャルに鑑賞していただく、いわゆるAR(拡張現実)の構築を目指して作業に着手しました。

かつての箱崎キャンパスは、不完全ですが外観(かつての中央図書館、工学部50周年記念講堂など一部は内部まで)

を実測していますので、すでにWeb上で閲覧いただけます(<https://history.arch.kyushu-u.ac.jp/potree/workspace/Hakozaki.html>)。

旧工学部本館も外観のみでしたが(玄関ポーチは詳細に実測しています)、今回は未公開の4階会議室を含めて、web上で体験可能とします。タイトル上の画像は会議室の断面です。スキャンデータから生成しました。さらに展示物の3Dモデルへのリンクを通じて、仮想博物館の構築を目指していきます。実際の公開は少し先となりますが、楽しみにお待ちください。

COLUMN④

旧工学部本館建物内を撮影しました

丸山 宗利 分析研究部門・准教授



旧工学部列品室の様子

私たちが主な活動場所としている箱崎サテライトの改修計画が具体化しつつあります。まだどうなるかわからないところもありますが、もしかしたら旧工学部本館の建物内部も完全に姿を変えてしまうかもしれません。少なくともこのまま

ということはないので、その記録を写真に残そうということになりました。そこで福岡市内の写真家、山本薫さんをお願いし、8月の暑い盛りに当館の管理する全室と廊下、講義室や会議室の撮影をお願いしました。さすがの見事な出来栄で、

見慣れた景色も美しく見えます。雑然とした教員居室の撮影には恥ずかしいところもありましたが、いつかは懐かしいものとなるのでしょう。いずれ一部を当館のホームページに掲載するか、写真集などにできればと考えています。

COLUMN⑤



フジイギャラリー展示開催報告

「九大 EXPO 2024」

福永 将大 開示研究部門・助教

会場●フジイギャラリー／主催●九州大学総合研究博物館／協力●九州大学広報課
期間●8月2日～3月31日 ※時期により研究内容の入れ替えを行います。

1911年に帝国大学の一つとして創立し、100年を超える歴史を有する九州大学。現在約2,000人の研究者が在籍しており、人文社会科学系、自然科学系、そして

デザイン系の幅広い分野の研究者たちが、日々卓越した基礎研究および応用研究を行っています。

本展示では、2024年に公表された研究成果の中から、特に注目

される成果についてパネル展示にてご紹介します。公表された研究成果は膨大な量で、どれも最先端かつ重要なものばかり。展示スペースの関係もあり、今回は

それらの中からごくわずかしかご紹介できませんが、本展示を通して、九州大学で行われている研究の最前線をご覧いただけますと幸いです。



博物館の活動記録

Activities of Exhibitions & Conferences

特別展示

- 登録有形文化財記念展示「九州大学と旧工学部本館」
期間○令和6年11月1日(金)～令和7年6月30日(月)
場所○九州大学箱崎サテライト総合研究博物館常設展示室
主催○九州大学総合研究博物館
- 「VISIONS 一抽象／写真をみる一 Sato Shintaro Photo Exhibition」
期間○令和7年2月3日(月)～3月5日(水)
場所○フジギャラリー
主催○九州大学総合研究博物館
共催○九州大学芸術工学研究院、九州大学大学改革活性化制度「日本デザインを創造し国際発信できる人材育成のための教育プログラムの構築」
協力○キヤノンマーケティングジャパン株式会社
後援○ふげん社、PGI
- 「九州大学工学部建築学科卒業設計展」
期間○令和7年3月18日(火)～5月25日(日)
場所○フジギャラリー
主催○九州大学工学部建築学科
後援○松遙会(建築学科同窓会)
- 「吉岡齊資料展 ー日本の科学技術と原子力政策ー」
期間○令和7年6月11日(水)～8月6日(水)
場所○フジギャラリー
主催○九州大学大学文書館
協力○九州大学附属図書館・NHK福岡放送局

公開展示

- 九州大学総合研究博物館 第25回公開展示「博物の森で遊ぼう」
期間○令和7年5月17日・18日・24日・25日・31日・6月1日・7日・8日・14日・15日(土日全10日間)
場所○九州大学箱崎サテライト旧工学部本館
主催○九州大学総合研究博物館

講座・講演会等

- 九州大学工学部建築学科卒業設計展関連イベント 建築×異分野クロストーク「建築は社会をどう象徴するのか」
日時○令和7年5月17日(土) 14:00～17:00
場所○フジギャラリー
主催○九州大学工学部建築学科
- 能古会講演会
日時○令和7年5月31日(土) 15:00～16:00
場所○旧工学部本館1階大講義室
- 第28回大学博物館等協議会・第20回日本博物館科学会
会期○令和7年6月19日(木)～6月20日(金)
会場○九州大学箱崎サテライト旧工学部本館

サテライト展示

- 福岡県のクワガタ
期間○令和4年2月24日～
場所○糸島市立糸島市図書館二丈館
- 福岡県のクワガタ
期間○令和4年2月24日～
場所○糸島市立伊都文化会館
- 福岡県の蝶
期間○令和4年2月24日～
場所○糸島市立志摩歴史資料館

学外連携事業

- 「福岡ミュージアムウィーク 2025」
期間○令和7年5月17日(土)～5月25日(日)
場所○参加各施設
主催○福岡ミュージアム連絡会議
協力○(株)博多座、(公財)福岡市文化芸術振興財団、よかたい図書館共同事業体(福岡市総合図書館指定管理者)

共催

- 「ふくおか大昆虫展 in かま 生命～きらりと光る未来展～」
日時○令和7年3月15日(土) 10:00～17:00
昆虫標本・パネル展示は3月8日(土)～3月16日(日)
場所○嘉麻市嘉穂生涯学習センター 夢サイトかほ
共催○嘉麻市、九州大学昆虫科学・新産業創生研究センター、九州大学総合研究博物館
後援○嘉麻市教育委員会、嘉麻市商工会、嘉麻商工会議所、株式会社嘉麻スタイル、九州経済産業局、福岡銀行、福岡県、福岡地域戦略推進協議会
協力○嘉麻市昆虫産産都市産学官連携協議会、九州大学産学官民連携セミナー「地域政策デザインスクール」
- 「ハコザカマルシエ×九大博物館@箱崎サテライト vol.2」
日時○令和7年5月25日(日) 11:00～16:00
場所○九州大学箱崎サテライト
主催○箱崎商店連合会
共催○九州大学総合研究博物館

協力

- 「カーリーナ・ニマーファル
≪ 非同時的なモノたち: 帝国と環境 ≫
Karina Nimmerfall "ASYNCHRONOUS OBJECTS: Empire and Environment"
日時○令和7年5月17日(土)～6月15日(日)の土日(全10日間)10:00～16:00
場所○九州大学箱崎サテライト旧工学部本館1階146室
主催○科学研究費助成事業 基盤研究(C)「大学博物館におけるアート・インターベンションに関する理論調査と展示実践」
協力○九州大学総合研究博物館/九州大学大学院芸術工学研究院/オーストラリア連邦芸術・文化・公務・スポーツ省/遊花遊月
- 「BOOK WAY vol.2 箱○古本市」
日程○令和7年6月8日(日)
場所○筥崎宮参道
主催○箱○道実行委員会
後援○筥崎宮、箱崎校区自治会連合会、ブックオカ実行委員会
協力○九州大学総合研究博物館

- 企画展「ふくおか大昆虫展 × 蟲神器 in ももち」
期間○令和7年7月19日(土)～8月17日(日)
場所○TNC放送会館1F 特設会場
主催○TNCプロジェクト
協力○九州大学総合研究博物館、九州大学昆虫科学・新産業創生研究センター、COI NEXT九州大学 昆虫共創拠点、大創出版、TNC放送会館、BEETLE SHOP様、Team「Koro」
後援○福岡市、嘉麻市、嘉麻市教育委員会、TNCテレビ西日本
- 企画展「甲虫展一ひとくコレクションのビートルズ」
日程○令和7年7月19日(土)～令和8年1月12日(月)
場所○兵庫県立人と自然の博物館 2階企画展示室
主催○兵庫県立人と自然の博物館
協力○伊丹市昆虫館、九州大学総合研究博物館、徳島県立博物館、大島康弘、坂本昇、澤田義弘、田中良尚、外村俊輔、長嶋聖大、伴光哲、丸山宗利、吉富博之ほか

監修

- 「大昆虫展 in 東京スカイツリータウン 昆虫と地球とみんなの未来」
期間○令和7年7月12日(土)～9月1日(月)
場所○東京スカイツリータウン・ソラマチ5階「スペース634」
主催○大昆虫展実行委員会
協賛○デジタル昆虫採集アプリ「バグハン!」
後援○環境省/東京都/墨田区/墨田区教育委員会/墨田区観光協会/上月財団
監修○五箇公一(国立環境研究所生物多様性領域特命研究員)丸山宗利(九州大学総合研究博物館准教授)
特別協力○東武鉄道、東京スカイツリータウン、九州大学総合研究博物館
協力○足立区生物園、NPO法人昆虫食普及ネットワーク、KADOKAWA、TCA 東京 ECO 動物海洋専門学校、帝京科学大学、東京いきもの調査団(東京都・ハイオム)、日本大学芸術学部、ポプラ社、HLM、神崎亮平(東京大学先端科学技術研究センター・シニアリサーチフェロー)、さとう甲(造形作家)、島田拓(Ant Room 代表)、じゅえき太郎(イラストレーター)、日野真人(九州大学農学研究院助教)、前畑真実(芋活.com)、政所名積(展翅工房)
運営協力○アライヴプロモーション

その他の活動状況

Others

運営委員会

- 令和7年6月10日(WEB)
- 令和7年6月23日(書面)
- 令和7年7月28日(書面)

人事往来

- 令和7年3月31日付けで、専門員の森田 裕子が退職しました。
- 令和7年4月1日付けで、一般職員の中村 説男が転出しました。
- 令和7年4月1日付けで、専門員(兼務)として川原 弘一が着任しました。
- 令和7年4月1日付けで、一般職員として堀 美佳が着任しました。
- 令和7年8月31日付けで、専門員の川崎 輝之が退職しました。
- 令和7年9月1日付けで、一般職員として竹本 京司が着任しました。

総合研究博物館では2022年、新たに用途特定寄附金を設置しました。皆様からの以下のご寄付を受け付けています。

用途特定寄附金

『総合研究博物館箱崎サテライト拠点化事業』



▼詳しくは九州大学基金のHPをご参照下さい

【九州大学総務部同窓生・基金課基金係:総合研究博物館箱崎サテライト拠点化事業】
https://kikin.kyushu-u.ac.jp/news/view.php?cld=1558&r_search=&mode=1&page=1

◎当館は、九大百年の歴史的エリアである箱崎サテライトにおいて令和10年にリニューアルオープンします。また伊都キャンパスに伊都標本資料研究・教育プラチを令和5年に設置しました。リニューアルに際し、箱崎と伊都をつなぐ、大規模な展示施設の整備を企画しています。皆様からのご寄付は、展示・開示活動を核とした情報発信、地域連携、社会教育などの諸活動のさらなる拡充と機能強化に活用いたします。